

フランス語の認知モードについて

春木 仁孝

(大阪大学)

昨年の例会で、再帰構文受動用法と英語などの中間構文の違いの多くを、フランス語と英語の認知モードの違いと関連づけて説明を試みた。今回は対象となる現象をさらに広げてフランス語の認知モードの傾向と、幾つかの問題について検討する。フランス語の現象においては発話空間（発話現場）や発話者を十全に考慮しなければ説明できないものが多いが、これはフランス語においては(身体的)インタラクションを通じた認知が重要であることに対応している。一方で、日本語などくらべればフランス語には英語同様、メタ認知的な側面もある。モノやコトを主語に取る構文が多用される点や人称代名詞の用法などにそれが見られる。このようなフランス語における2種類の認知モードのあり方についても考えたい。